

新聞表記の現状と制定経緯
—常用漢字表との異同を中心に—

金武 伸弥

I 新聞表記の基準

原則 わかりやすい口語体で、常用漢字、現代仮名遣い、送り仮名の付け方によって書く。

*漢字の使い方

- ① 漢字は常用漢字表に掲げられたものを、その音訓の範囲内で使う。字体も常用漢字表、人名用漢字表（1997年制定まで）に掲げられた字体とする。

〔例〕 澁澤榮一 → 渋沢栄一

- ② 常用漢字表、人名用漢字表にない漢字（表外字）は正字体を使うのを原則とする。

〔例〕 森鷗外 → 森鷗外

（注）新聞によっては表外字も略字体を使っている。

- ③ 常用漢字・音訓の範囲で書き表せないものは、なるべく別の言葉や字に置き換えるか、仮名書きにする。やむを得ず表外字を使う場合は読み仮名を付けるのを原則とする。

〔例〕 塵芥 → ごみ 縋帯 → 包帯 挨拶 → あいさつ 膠原（こうげん）病

- ④ 表外字（傍線）でも固有名詞およびこれに準ずるものは使ってよい。

〔例〕 松尾芭蕉 駿河湾 奄美大島 鞍馬天狗 交響曲「悲愴」

II 当用・常用漢字表に関連する新聞の漢字表記の変遷

1953（昭和28）新聞協会に新聞用語懇談会設立、当用漢字補正などを審議。

1954（昭和29）当用漢字補正資料国語審報告（28字追加、28字削除、2字音訓追加）—新聞用語懇談会で実施を決定。

〔追加〕 亭 俸 偵 僕 厄 堀 壤 宵 尚 戻 披 挑 据 朴 杉 棧 殼
汁 泥 洪 涯 渦 溪 矯 酌 釣 齊 竜

〔削除〕 謁 虞 箇 且 邈 但 脹 朕 附 又 濫 丹 劾 唐 嚇 堪 奴
寡 悅 煩 爵 罷 迅 逕 鍊 隸 頒 璽

〔音訓追加、字体変更〕 個コ→コ、カ 燈トウ→灯トウ、ひ

1956（昭和31）10月『新聞用語集』初版発行、当用漢字表（補正案）など収載。

1962（昭和37）3月発行の『新聞用語集』で、表外訓を含む熟語で漢字書きが慣用されており、適当な言い換え、書き換えのない「海女 為替 夏至 相撲」の4語は〔慣用〕として使用を認めた。

1969（昭和44）5月発行の『新聞用語集』では前記4語に加え、以下の語を〔慣用〕として使用を認めた。

硫黄 笑顔 お母さん 伯父・叔父 お父さん 伯母・叔母 景色 芝生 三味線 上手 師走 数寄屋 太刀 七夕 手伝う 投網 読経 時計 仲人 兄さん 姉さん 波止場 一人 日和 二人 下手 部屋 真っ赤 真っ青 木綿 八百長 八百屋 行方 寄席 若人

1978 (昭和 48) 当用漢字改定音訓表内閣告示一「付表」に用懇が決めた前記 39 語のうち「夏至、伯父・叔父、伯母・叔母」を除く 36 語を含む熟字訓 106 語を掲示。「夏至」は本表で「ゲ」の音を追加)

1981 (昭和 56) 常用漢字表告示 (補正案 28 字を含む。削除候補 28 字は残り、「個」の音追加もされなかった。「付表」には前記 106 語に「伯父・叔父、伯母・叔母、棧敷、凸凹」を追加、計 110 語を掲示) 一用語懇談会で削除候補 28 字のうち 11 字 (謁 虞 箇 且 遵 但 脹 朕 附 又 濫) を引き続き使用しないこと、新たに 6 字種、1 音を追加、「付表」の語に 18 語を加えることを決めた。また、9 月発行の『新聞用語集』に、表外字を含むが、ルビなしで使用できる 12 語を㊦印をつけて掲載した。

〔字種〕

龜 (キ、かめ) 舷 (ゲン) 痕 (コン) 挫 (ザ) 哨 (ショウ) 狙 (ソ、ねらう)

〔字音〕カ (個)

〔付表に追加〕

えもん 衣紋 おちゅうど 落人 おてまえ お点前 (茶の湯) おんみつ 隠密
かりゅうど 狩人 かなづき 神無月 ぎだゆう 義太夫 きっすい 生粋
こじ 居士 さいさき 幸先 たしせいせい 多士済々 たておやま 立女形
としま 年増 ないしょばなし 内証話 はんにゃ 般若 ふいち
よう 吹聴 みのしろきん 身代金 めしゅうど 召人

〔ルビなしで使用できる特別な語〕

華僑 歌舞伎 小唄 鍾乳洞 浄瑠璃 枢機卿 関脇 箏曲 長唄 端唄 琵琶 弥生 (式)

1993 (平成 5) 用語懇談会春季合同総会で、「ら致」「だ捕」の交ぜ書きおよび「班点」「壇家」の代用漢字を廃止、本来の漢字読み仮名つきに改定。

1996 (平成 8) 10 月発行の『新聞用語集』付表に 23 語を加え、表外字を含むがルビなしで使用できる㊦8 語を追加。

〔付表に追加〕

いりもや 入り母屋 うんも 雲母 おやま 女形 かたりべ 語り部 かわも
川面 けんうん 巻雲 けんせきうん 巻積雲 ごようたし 御用達 し
おさい 潮騒 じかだんぱん 直談判 じかとりひき 直取引 しゅん 旬
すけっと 助っ人 だいだいかぐら 太太神楽 たて 殺陣 たんのう 堪能
でずいり 手数入り どどいつ 都々逸 なにわぶし 浪花節 めすっと 盗っ
人 ふんぬ 憤怒 ほうる 放る めくばせ 目配せ

〔ルビなしで使用できる特別な語〕

桂馬 地唄 獅子舞 豎穴 (遺跡) 常磐津 錦絵 錦の御旗 俳諧

1999 (平成 11) 用懇で常用漢字表が実情に合わなくなってきたとの声が高まり、常用漢字並みに扱う表外字の選定を始める。

2000 (平成 12) 用懇加盟各社にアンケート、候補 194 字種を関東幹事会で検討、文化庁による頻度調査 (凸版新旧両調査) なども参考に 39 字種に絞り、秋の全国総会で表外訓 9 字種 10 訓とともに採択。

〔字種〕

磯 (いそ) 牙 (ガ、ゲ、きば) 瓦 (ガ、かわら) 鶴 (カク、つる) 釜 (かま)
玩 (ガン) 臼 (キユウ、うす) 脇 (キョウ、わき) 錦 (キン、にしき) 胸
(ク、こま) 詣 (ケイ、もうでる) 拳 (ケン、こぶし) 鍵 (ケン、かぎ) 虎
(コ、とら) 虹 (コウ、にじ) 柿 (シ、かき) 餌 (ジ、え、えさ) 腫 (シュ、
はれる、はらす) 袖 (シュウ、そで) 尻 (しり) 腎 (ジン) 須 (ス) 腺 (セ
ン) 曾・曾 (ソ、ソウ) 誰 (だれ) 酎 (チュウ) 賭 (ト、かける) 腫 (ド
ウ、ひとみ) 頓 (トン) 井 (どんぶり、~どん) 謎 (なぞ) 鍋 (なべ) 汎
(ハン) 斑 (ハン) 枕 (まくら) 闇 (やみ) 妖 (ヨウ) 嵐 (ラン、あらし)
呂 (ロ)

〔字訓〕証 (あかす) 癒 (いえる、いやす) 粹 (いき) 描 (かく) 要 (かなめ)
応 (こたえる) 鶏 (とり) 館 (やかた) 委 (ゆだねる)

2001 (平成 13) 秋季合同総会で 39 字種の単漢字以外に、読み仮名なしで使う熟語 24 語 (一
揆、元旦、拉致など) を採択、この秋から翌春にかけて各社「新漢字表」を実施。

2002 (平成 14) 春季合同総会で「潰走→壊走」「詭弁→奇弁」「橋頭堡→橋頭保」「合祀→
合祭」などの書き換え・言い換えを廃止、「敗走」「詭弁 (きべん)」「橋頭保 (きよ
うとうほ)」「合祀 (ごうし)」とする改定案を採択。

2003 (平成 15) 秋季総会で「冥土」「冥福」「伴侶」などを読み仮名なしで使うことを採択。

2004 (平成 16) 秋季総会で「旬 (しゅん)」「放 (ほうる)」を付表から本表に移すこと、「柵」
「芯」を特例としてルビなし使用できることを採択。

2006 (平成 17) 以上の改定を含む『新聞用語集』最新版、07 年 1 月発行予定。「新聞常用
漢字表」の「本表」には、内閣告示「常用漢字表」の 1945 字 (使用しないことを決
めた 11 もその旨の記号をつけて掲載) に、「常用漢字表」外であるが、新聞用語懇
談会が使用することを決めた 45 字と、追加する 13 の音訓を付け加え、計 1990 字の
字体と音訓を示した。「付表」には、内閣告示「常用漢字表・付表」の 110 語に新聞
用語懇談会が使うことを決めた慣用表記 52 語 (81 年 17 語 (「内証話」削除) +96
年 21 語 (「旬、放る」削除) +14 語) を加えている。なお、表外字を含むがルビな
しで使用を認める㊦20 語 (熟語 18、単漢字 2) を掲載した。

〔付表に追加=14 語〕

がいため 外為 かいまみる 垣間見る くげ 公家 けんそううん 巻層雲
しにせ 老舗 せきわけ 関脇 せっけん 席卷 そとうば/そとば 卒塔
婆 たゆう 太夫・大夫 とざま 外様 にしきのみはた 錦の御旗 にん
じょう 刃傷 ひとみごくう 人身御供 みかげいし 御影石

〔表外字を含むがルビなしで使用を認める熟語〕

一揆 旺盛 元旦 斬新 獅子 庄屋 僧侶 戴冠・戴帽 (式) 奈落 伴侶 蜂起
捕捉 馬子唄 蜜月 冥王星 冥土 冥福 拉致

〔特例としてルビなしで使用する表外字〕

柵 芯

以上